

2025年3月18日更新

履修要綱

(大学院生版)

2025年度

神戸大学経営学研究科

目 次

2025 年度経営学研究科授業日程表	1
履修手続きについて	2
2025 年度開講科目一覧表	4
大学院博士課程の基礎的科目の体系と履修計画について	8

【前期】

2025年	3月29日(土)	専門職学位課程新入生ガイダンス
	4月 1日(火)	前期開始日
	4月 2日(水)	博士課程(前期・後期)新入生ガイダンス
	4月 7日(月)	博士課程(前期・後期)演習開始日
	4月 7日(月)・4月8日(火)	新入生(大学院生)健康診断
	4月 8日(火)	前期授業開始
	5月 7日(水)	月曜日の授業実施日
	5月 8日(木)	火曜日の授業実施日
	5月15日(木)	本学創立記念日(授業は開講)
	5月30日(金)～6月 5日(木)	学部定期試験期間【1Q】(大学院授業は一部科目を除き授業実施)
	6月 6日(金)	授業・定期試験期間の予備日【1Q】
	7月22日(火)～7月28日(月)	授業期間(一部科目は定期試験実施)【2Q・前期】
	7月29日(火)～8月 4日(月)	定期試験期間(一部科目は授業実施)【2Q・前期】
	8月 5日(火)	授業・定期試験期間の予備日【2Q・前期】
	8月 6日(水)	夏季休業開始日
	9月25日(木)	博士課程前期課程・博士課程後期課程・専門職課程学位記授与式
	9月27日(土)	経営学研究科専門職課程学位記授与式
	9月30日(火)	夏季休業終了日・前期終了日

【後期】

2025年	10月 1日(水)	後期開始日
	10月15日(水)	月曜日の授業実施日
	11月 6日(木)	月曜日の授業実施日
	11月 7日(金)	授業の予備日
	11月 8日(土)、11月 9日(日)	六甲祭
	11月25日(火)～12月 1日(月)	学部定期試験期間【3Q】(大学院授業は一部科目を除き授業実施)
	12月 2日(火)	授業・定期試験期間の予備日【3Q】
	12月28日(日)	冬季休業開始日
2026年	1月 4日(日)	冬季休業終了日
	1月14日(水)	月曜日の授業実施日
	1月15日(木)	授業の予備日
	1月16日(金)	大学入学共通テスト準備<休講>
	1月19日(月)	附属中等教育学校入学試験(授業は開講)
	1月26日(月)～1月30日(金)	授業期間(一部科目は定期試験実施)【4Q・後期】
	2月 2日(月)～2月 6日(金)	定期試験期間(一部科目は授業実施)【4Q・後期】
	2月10日(火)	授業・定期試験期間の予備日【4Q・後期】
	3月25日(水)	学士課程・博士課程前期課程・博士課程後期課程・ 専門職課程学位記授与式
	3月31日(火)	後期終了日

履修手続きについて

I. 履修登録受付

受付期間

[前期] 4月 1日(火) ～ 4月21日(月) 17時まで
[後期] 9月29日(月) ～ 10月15日(水) まで

注1 WEBによる入力方法については、入力マニュアル(教務情報システム「うりぼーネット」利用の手引き・学生用 <https://www.uriboportal.ofc.kobe-u.ac.jp/uribo-net/>)を参照してください。また、登録に必要なID番号・パスワードの交付を必ず事前に受けてください。

注2 登録期間終了後は、登録・修正は一切できません。

注3 「演習」は教務グループで登録しますので、登録する必要はありません。

注4 大学院科目は原則 Semester 開講科目ですが、一部にクォーター開講科目があります。第2クォーター・第4クォーター開講科目であっても、履修登録は前期・後期開講科目とそれぞれ同じ期間となります。

★受付期間・時間はすべて予定です。

変更がある場合はメール等で通知しますので、必ず確認してください。

II. 受講許可申請が必要な履修登録について

次の科目については、履修登録に受講許可の申請が必要です。予め研究指導教員及び授業担当教員の受講許可を得た上で、教務グループに申請してください。

[前期]

申請期間：4月 1日(火) ～ 4月21日(月) 17時

[後期] 未定(後期時間割発表時に案内します。)

対象登録科目：

前期課程(本科履修コース学生)

- ・ 第5群科目
- ・ 第8群科目(ケースプロジェクト研究、テーマプロジェクト研究、現代経営学演習を除く)

専門職学位課程(MBA学生)

- ・ 第5群科目

※KIMAP in Management 授業科目の履修方法については、別途お知らせします。

注：受講許可申請による履修登録をした科目は、WEB画面上で削除(取り消し)ができません。

★登録期間終了後は、WEB画面からの登録・修正は一切できません。

事前に計画を立てて入力(登録)を行ってください。

Ⅲ. 履修取消制度について

学期初めに履修登録を行った科目について、途中で履修を中止したい場合、学期毎に設けられる**履修取消期間**中に履修を取り消すことができます。

(KIMAP in Management 授業科目及び MBA 授業科目は除く)

履修取消期間

[前期・第1Q科目]	4月22日(火)～	4月28日(月)23時59分(予定)まで
[第2Q科目]	6月23日(月)～	6月29日(日)23時59分(予定)まで
[前期・第3Q科目]	10月16日(木)～	10月22日(水)23時59分(予定)まで
[第4Q科目]	12月17日(水)～	12月23日(火)23時59分(予定)まで

※KIMAP in Management 授業科目及び MBA 授業科目の履修取消方法については、別途指示します。

★履修登録や履修取消は、原則として学生自らが「うりぼーネット」(WEB)で行います。

- 注1 取り消した科目は、「履修科目一覧表」や「学業成績表」で確認できます。
- 注2 履修取消期間中に取り消さなかった科目は、成績評価の対象となります。取り消さずに途中で履修を中止した場合、**成績評価は「不可」(不合格)となりますので、注意してください。**
- 注3 履修登録前までに、各授業科目のシラバスで授業内容を必ず確認し、年間の履修計画をしっかりと立てた上で、履修登録と履修取消を行ってください。
- 注4 取り消した科目は、履修取消期間終了後、その学期中に再び受講(履修)することはできません。
- 注5 修学上の理由から、「履修取消ができない科目」と「履修取消期間中に取消ができない科目」があります。詳細については、掲示等で発表します。

2025(令和7)年度 開講科目一覽

区分	科目名	前期	後期	単位
第1群	経営管理特論	松嶋・中村・服部		2
	経営制度特論	宮尾・庭本・西村(成)		2
	決定分析特論		宮原	2
	財務会計特論	音川		2
	会計制度特論		高田・與三野・安間	2
	管理会計特論		佐久間	2
	マーケティング特論	結城		2
	ファイナンス特論	山崎		2
	市場経済分析特論	中村		2
第2群	数学的方法論研究	馬		2
	統計的方法論研究		丸山	2
	定性的方法論研究	堀口・松嶋・清水・ 庭本・森村・服部・吉田		2
第3群	経営管理特殊研究(イノベーション・マネジメント)	塩谷		2
	経営管理特殊研究(リーダーシップ) ※2	服部		1
	経営管理特殊研究(経営品質マネジメント) ※2	原田・関西生産性本部		2
	経営管理特殊研究(対話型価値共創と組織づくり) ※2		鈴木	1
	経営管理特殊研究(組織行動)		砂口	2
	経営制度特殊研究(イノベーション分析) ※2	原		2
	経営制度特殊研究(アジア・ビジネス)		戸梶	2
	決定分析特殊研究(組織の経済学)	定兼		2
	決定分析特殊研究(発展的話題)	安部		
	財務会計特殊研究(財務報告)	北川		2
	財務会計特殊研究(実証会計学)	榎本		2
	財務会計特殊研究(財務情報)		藤山	2
	会計制度特殊研究(国際会計制度)		與三野	2
	会計制度特殊研究(税務会計)		安間	2
	管理会計特殊研究(コスト・マネジメント)	小笠原		2
	ファイナンス特殊研究(実証ファイナンス)	早木		2
	ファイナンス特殊研究(コーポレートファイナンス)		高橋	2
	市場経済分析特殊研究(国際交通)		角田	2
	市場経済分析特殊研究(市場と戦略)		善如	2
	市場経済分析特殊研究(実証産業組織)		水田	2
	統計的方法論特殊研究(ベイズ統計)	分寺		2
	統計的方法論特殊研究(非集計データ分析)		三古	2
	統計的方法論特殊研究(多変量解析)		分寺	2
	経営データ分析特殊研究(プログラミング)	小濱・石野		1
	経営データ分析特殊研究(データ社会と経営) ※2	藤原		2
	経営データ分析特殊研究(テキストマイニング)		石野・内田	2
	経営データ分析特殊研究(AIによるESG評価演習) ★		石野・中尾・國部	2
	経営データ分析特殊研究(M&Aデータ分析演習) ※2		本田	2
	経営データ分析特殊研究(オープンデータ活用)(開マナーフォローード寄附講義)		原・吉住	1
	経営学特殊研究(対話型価値共創) ※2	鈴木・國部・吉田		1
経営学特殊研究(ビジネスにおけるリベラルアーツ) ※2	佐藤		2	
経営学特殊研究(起業家の思考と行動法則) ※2	山川		1	
経営学特殊研究(対話型価値共創演習) ※2	小田		2	
経営学特殊研究(人的資本経営) ※2		藤本	2	

区分	科目名	前期	後期	単位
第3群	経営学特殊研究(キャリアデザイン) ※2		小田	1
	経営学特殊研究(地域課題と経営) ※2		小田	1
	経営学特殊研究(対話型価値共創インターンシップA) ※2	小田		1
	経営学特殊研究(対話型価値共創インターンシップB) ※2	【今期不開講】		2
第4群	論文作成セミナー	宮原・森・北川・山崎		1
	博士候補者ワークショップ	宮原・森・北川・山崎		1
第5群	※1			
第6群	演習	各 教 員		
第7群	産業界に役立つ論文作成セミナー		國部・菊池	1

区分	科目名	前期	後期	単位
第8群	Sales and Marketing★	吉田		3
	Technology and Operations Management★	宮尾・原		3
	Individuals and Groups★	服部・江夏		3
	Controlling and Reporting★		梶原・清水(泰)	3
	Strategy★		原田・塩谷・西村(成)	3
	統計解析応用研究★	分寺		2
	ビジネスエコノミクス応用研究	松井		2
	需要予測と意思決定	三古		1
	ファイナンス応用研究★	森		2
	経営倫理★ ※2		國部	1
	現代経営学応用研究(経営史)	西村(成)		1
	現代経営学応用研究(グローバル戦略)★ ※M2向け	ボストン・コンサルティング・グループ		1
	現代経営学応用研究(交渉学)★	松木		1
	現代経営学応用研究(ファミリービジネス)★ ※2	三菱UFJ銀行		1
	現代経営学応用研究(アントレプレナー・ファイナンス)★ ※2	蔭山		1
	現代経営学応用研究(サーベイリサーチ)★ ※M1向け	森村・砂口		2
	現代経営学応用研究(プロジェクト・マネジメント)	今井		1
	現代経営学応用研究(エフェクチュエーション) ※2	佐藤		2
	現代経営学応用研究(アントレプレナーシップ)★ ※2		佐藤	2
	現代経営学応用研究(事業創発マネジメント)★ ※M2向け	中島		1
	現代経営学応用研究(コーチング)		コーチ・エイ	1
	現代経営学応用研究(病院の経営管理(戦略マネジメントと人的資源管理))		松尾(貴)・松尾(睦)・築部	1
	現代経営学応用研究(日本経営品質賞)		長友	1
	現代経営学応用研究(企業と社会)		堀口	1
	現代経営学応用研究(国際経営(M&A))★		ペーベンロート	1
	現代経営学応用研究(M&A戦略) ※2		日本M&Aセンター	1
	現代経営学応用研究(組織と人的資源管理)		庭本	1
	現代経営学応用研究(病院の経営分析・コスト分析)		松尾(貴)・新井	1
	グローバル経営学応用研究★	戸梶		2
	ケースプロジェクト研究★	宮尾・吉田		2
テーマプロジェクト研究★	梶原・服部		2	
現代経営学演習★		江夏・梶原・鈴木・宮尾・森村	8	

※1 第5群の今年度開講科目は、授業時間割表で確認してください。

※2 BVCCプログラム(対話型ビジネス価値共創人材養成プログラム)開講科目

★ 土曜集中講義

注1:一般学生が、第8群科目を履修する場合は、指導教員及び授業担当教員の許可を得たうえで、履修登録期間内に、教務グループで受講手続きを取ってください。

注2:一般学生が、第5群科目を履修する場合は、授業担当教員の許可を得たうえで、履修登録期間内に教務グループで受講手続きを取って下さい。

注3:専門職学位課程(MBAコース)学生が、第5群科目を履修する場合は、授業担当教員の許可を得たうえで、履修登録期間内に教務グループで受講手続きを取ってください。

注4:一般学生及びMBA学生が、KIMAP授業科目(次ページの一覧参照)を

履修する場合は、事前に履修希望を提出する必要があります。履修申請の詳細は後日掲示等でお知らせします。

KIMAP in Management Courses (Academic Year 2025-2026)

Term	Classification	Subject	Units	Instructor
Spring	K1	Japanese Legal System II	2	Narufumi Kadomatsu
	K1	KIMAP Intermediate Microeconomics	2	David Wolf
	K2	Research Method II	2	Jittima Tongurai / Yiting Weng
	K2	Qualitative Method	2	Yiting Weng
	K2	Econometrics for Business Economics	2	Tong Li / Seiichiro Mizuta
	K3	Public Administration and Project Evaluation	2	Miwa Matsuo
	K3	Advanced Portfolio Management - Theory and Practice	2	Yukihiro Nishimura
	K3	ESG Investing	2	Yukihiro Nishimura
	K3	Corporate Finance	2	Jittima Tongurai
	K3	Advanced Entrepreneurial Finance	2	Bishnu Kumar Adhikary
	K3	Advertising and Marketing Communications I	1	Shintaro Okazaki / Takumi Tagashira
	K3	Advertising and Marketing Communications II	1	Shintaro Okazaki / Takumi Tagashira
	K3	Economics of Network Industries	1	Andrew Smith / Nobuhiro Sanko
	K3	Strategic Management	1	Alex Wright / Yiting Weng
	K3	WTO and IPR (intellectual property rights)	1	Eric Bond / Seiichiro Mizuta
	K3	Leadership: Advanced Perspectives	1	Svetlana Khapova / Yiting Weng
	K3	Technology Entrepreneurship	1	Chuck Eesley / Natsuko Tokaji
K3	Management Control for Strategy Execution	1	Jason D Schloetzer / Tomohiro Sakuma	

Term	Classification	Subject	Units	Instructor
Fall	K1	Japanese Legal System I	2	Yuki Sekine
	K1	KIMAP Intermediate Macroeconomics	2	Zierhut Michael
	K2	Research Method I	1	Jittima Tongurai
	K2	Econometric Analysis I	2	Wolf David Michael
	K3	Sustainability Accounting and Reporting	2	Mohammad Badrul Haider
	K3	Business Economics	2	Marcelo Fukushima
	K3	Advanced International Business	2	Ralf Bebenroth
	K3	Management Statistics	2	Wafa Tariq Waqar
	K3	KIMAP Introduction to Finance	2	Jittima Tongurai
	K3	Financial Management	2	Jittima Tongurai
	K3	Organizational Behavior/ Human Resource Management	2	In-Sue Oh / Yasuhiro Hattori
	K3	Marketing Channels and Organizational Economics	1	Desmond Lo / Takumi Tagashira
	K3	The Art of Change: Navigating M&A Dynamics	1	David P. Kroon / Yiting Weng
	K3	Service Management and Servicizing	1	Alfred Taudes / Takehisa Kajiwara
	K3	Trade Policy and Global Supply Chain	1	Joel Rodrigue / Yan Ma
	K3	Sustainable Tourism	1	Monica Chien / Noboru Matsushima

大学院博士課程の基礎的科目の体系と履修計画について

経営学研究科の博士課程の教育プログラムは、演習と講義を含む授業科目からなっています。授業科目のうち講義は、教授が学生に研究に必要な知識を与え、研究の方法を解説することによって、学生がこれらの知識と方法を体系的に習得することを目的としています。演習は、学生が研究をし、教授がそれを指導・助言し、研究内容や方法について議論をすることによって、学生が講義で身につけた知識と方法を実際に研究に適用できるようにすることを目的としています。また、研究の方法についての知識を獲得すること、特定の領域で実際の研究を行うのに必要なより深い知識を習得することも演習の目的に含まれます。

講義には、大まかに言って、経営学研究科が育成するさまざまな分野の研究者に共通して必要な基礎教育を行うことを目的とする科目と、分野ごとの発展的な内容を学ぶ科目とがあります。詳しく言うと、経営学研究科では、育成する研究者の分野を大まかに9つ想定し、その各分野の基礎的知識を学ぶ科目を第1群科目と呼んでいます。他方、それぞれの分野で研究者となる上で身につけなければならない研究方法を、分野横断的に3つ想定し、その研究方法の基礎的知識を学ぶ科目を第2群と呼んでいます。そして、これら第1群、第2群の科目を補助したり、補足したりする科目と、分野ごとの発展的な内容を学ぶ科目を、全て第3群科目と呼んでいます。つまり、基礎教育の講義は、第1群科目の全て、第2群科目の全てと、第3群科目の一部からなっています。

優れた研究者となるには、基礎教育による研究者としての基礎作りが大切です。そして、その基礎的能力の育成において、適切な順序でトレーニングすることが必要です。ある知識と能力を身につけるには、別の知識と能力が前提となり、それなしにはもともと希望した前者の知識や能力を身につけることが困難である、ということがしばしば起こります。優れた研究者となるには、第1群科目、第2群科目、基礎的教育を行う第3群科目を、必要とされるものについて、適切な順序で履修し、その科目が意図した能力の育成を着実に進めていくことが大切です。

そこで、以下では、大学院博士課程の科目のうち研究者に必要な基礎教育を行うものについて、それらがどのような体系で学生の研究能力を育成するよう設計されているのかを、簡単に説明します。ただし、研究分野によって、重きを置くべき研究者の基礎的能力が異なるので、必要とされる能力を適切にのばすことも大切です。以下では、経営学研究科で育成する研究者の分野のいくつかについて、経営学研究科の科目が取り扱う基礎教育の体系を説明します。分野ごとに、その分野の研究者となる上で必要な基礎教育で何を学ぶべきかについての考え方を述べ、それからその考え方にしたがった標準的履修例をフローチャートで図示します。

なお、標準的履修例では、各科目の開講有無や開講時期についても標準的である場合を想定しています。開講有無や開講時期については時間割表を確認してください。

2025年度の大きな変更ですが、「統計的方法論研究(確率モデル)」を講義科目としては開講しません。これは、この内容が重要ではないことを意味するのではなく、「統計的方法論研究」等の受講には必須の内容です。できれば入学前に身につけておいてほしい内容であり、大学院科目として開講する必要はないかもしれません。しかし、これまでに統計学を勉強してこなかった学生に基礎的な統計学を学習する機会を提供することも大切なことです。そこで、2025年度はオンデマンドで「統計的方法論研究(確率モデル)」の内容を提供することにしました。これは講義科目ではないため単位の認定もありませんが、不明な点は質問することもできます。統計学の内容理解に不安があ

る人もぜひ復習の機会として活用してください。以下の標準的履修例で「統計的方法論研究（確率モデル）」と書かれている場合は、このオンデマンドでの学習機会を指すものと考えてください。

以下で示す講義科目と履修順序は、あくまで、その分野の研究者となる上で誰もが身につけるべき知識と手法を学ぶ科目名と、履修順序のひな形を示しているのであって、それで十分というわけではない、ということに注意してください。以下で掲げる科目よりも進んだ内容の講義、基礎教育でない個別研究分野に関する特別な講義を受けて、学生の1人ひとりが個人の研究能力をさらに研鑽することが望ましいことは言うまでもありません。しかし、その逆であってははいけません。以下で掲げる科目の知識なしには、進んだ内容の講義を十分に理解することはできません。

また、以下で示す科目と履修順序は、典型的な履修のためのモデルであって、これが唯一正しいものと言うのではないことに注意してください。個人の能力に応じた調整が必要であることは言うまでもありません。例えば、以下で掲げる講義を理解する準備ができていない学生は、学部の講義に戻って勉強する必要があるでしょう。逆に、進んだ内容の講義、個別研究分野に関する特別な講義、あるいは準備のための科目は、経営学研究科の発展的内容を取り扱う第3群科目で学ぶことができます。また、本研究科以外の学部・研究科（例えば本学経済学研究科、経営学部、経済学部、その他の研究科・学部）や、単位互換制度を持つ大阪大学大学院経済学研究科、大阪大学大学院国際公共政策研究科、京都大学大学院経済学研究科、京都大学大学院経営管理教育部でも学ぶことができます。

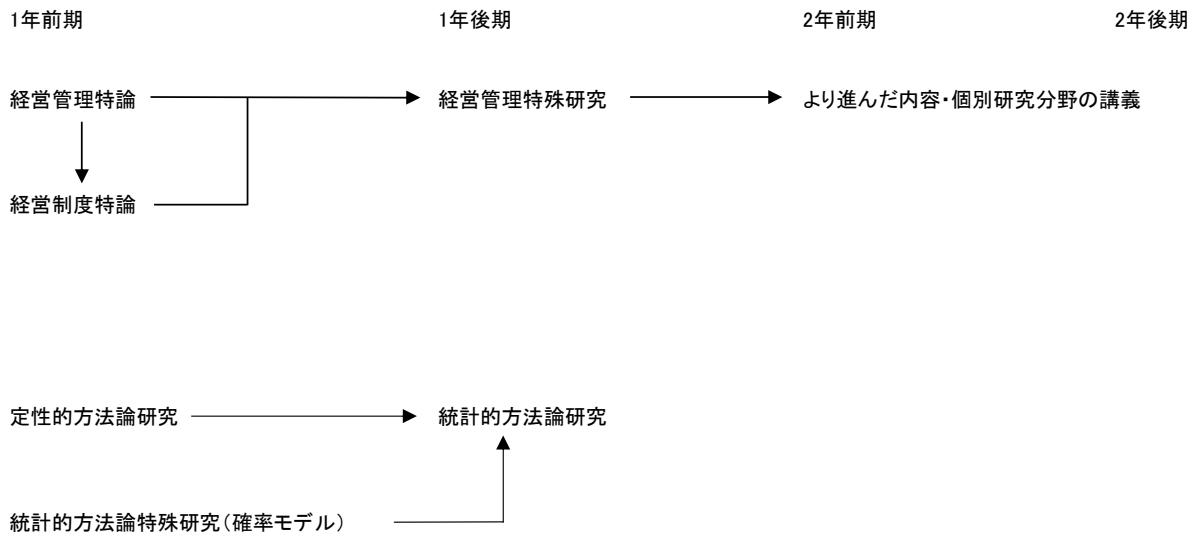
以下では、研究者となるための基礎教育の体系を、研究の分野ごとに述べていますが、それは、優れた研究者となるのに特定の1つの分野だけを蝸壺的に履修するのがよい、という意味ではありません。むしろ逆に、将来独創的な研究を行える研究者になるには、分野横断的に研究の基礎を身につけることが重要です。特定の分野で行われる影響力の広い発見や、学際的な発見は、経営学に関する広い理解の土台の上に可能となることが多いからです。分野ごとに体系が述べられているのは、学生の1人ひとりがそれぞれの分野の基礎教育の体系を良く理解して、研究者としての広く、しかも堅固な土台を適切に構築できるようにするためです。

以下の説明をよく読み、指導教員とよく相談して、適切な履修計画にしたがって履修してください。

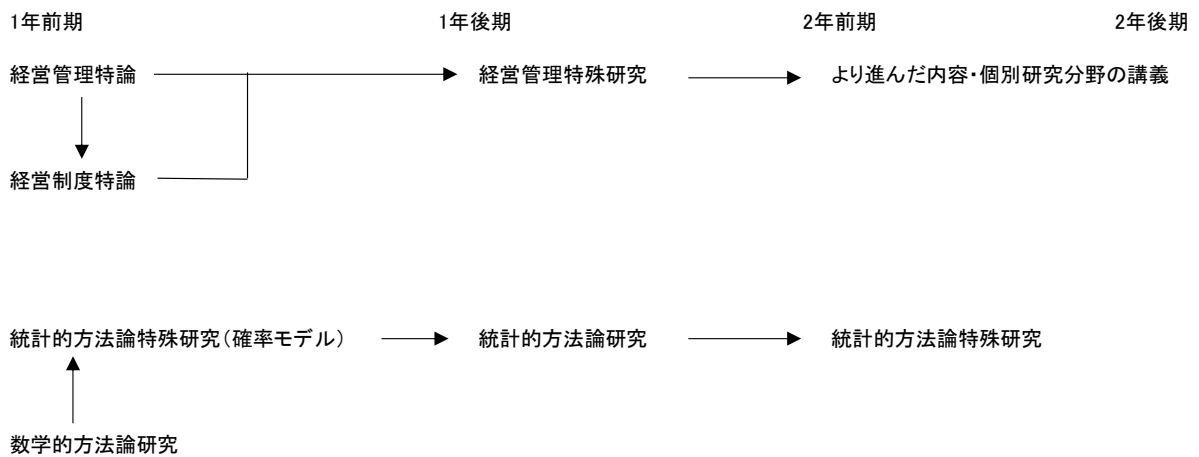
経営管理分野の基礎的科目の体系

1. 経営管理分野の研究者になるには、経営組織を介した管理実践にかかわる理論と方法論を学ぶ必要があります。
2. 経営管理の理論としては、まず一般的な学説を「経営管理特論」で学び、これらを補完するマイクロ組織論（心理学ベース）ならびにマクロ組織論（社会学ベース）を「経営管理特殊研究」で学びます。
3. 経営管理の方法論には、経営学にかかわる社会科学の思想を学ぶ「定性的方法論研究」と、質問紙調査の方法と統計解析の手法を学ぶ「統計的方法論研究」および「統計的方法論特殊研究」が位置づけられます。「定性的方法論研究」では、経営現象を理解するために必要となる社会科学の思想に加え、主に質的データの分析方法を学びます。「統計的方法論研究」および「統計的方法論特殊研究」では、「定性的方法論研究」で取り扱う社会科学の思想のうち、実証主義に基づいて量的データを収集し、仮説検証する手法を学びます。前者と後者は決して背反する位置づけではありませんので、注意してください（標準的履修例（その1））。
4. 統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を学ぶ「統計的方法論研究」については、統計解析の手法を用いた学術論文を正確に理解するための基礎知識にもなりますので、自ら質問紙調査や統計解析を行う予定がない場合であっても、必ず履修するようにしてください。
5. なお、当初から数理モデルや統計的方法により重心を置いた研究を望んでいる場合には、「定性的方法論研究」に代わり、「数学的方法論研究」および「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」を履修し、その後に「統計的方法論研究」を履修するようにしてください。さらに「統計的方法論研究」の発展的科目として用意されている多変量解析やデータ解析実習を行う「統計的方法論特殊研究」を履修してください（標準的履修例（その2））。

経営管理分野の標準的履修例（その1）



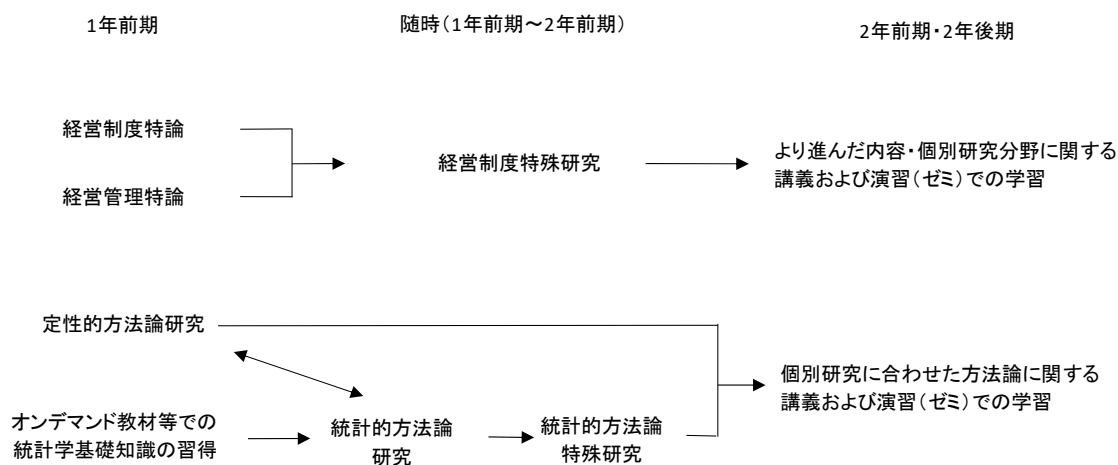
経営管理分野の標準的履修例（その2）



経営制度分野の基礎的科目の体系

1. 経営制度分野の研究者になるには、経営制度や経営管理に関する理論と歴史を学ぶ必要があります。経営制度や経営管理の理論は、実践に先行してあるわけではなく、実践があつて次第に並行するようになったものです。そのため、経営について深く理解するには、単に理論を知るだけでなく、経営の多様な歴史的展開についても学ぶ必要があります。
2. 経営制度や経営管理に関する理論と歴史の基礎は、「経営制度特論」と「経営管理特論」で学びます。それを踏まえた上で、人的資源管理、技術経営、経営史といった専門分野ごとに開講される「経営制度特殊研究」を履修し、幅広い専門的知識を身につけるように努めてください。経営制度は相互に影響・関連しているため、自分の関心のあるテーマ以外についても学んでおくことは決して無駄になりません。「経営制度特殊研究」以外の履修科目については指導教員と相談の上、決めてください。
3. 方法論については、歴史的方法、定性的方法、定量的方法と選択肢があります。できれば2つ以上の方法について、基礎だけでも理解しておくことが、研究者となるために望ましいと考えます。方法論関連科目の標準的な履修順序例は、下図の通りです。歴史的方法と定性的方法の基礎については、「定性的方法論研究」で学びます。定量的方法については、「統計的方法論研究」で学びますが、それを理解する前提として、その前にオンデマンド教材等で統計学における基礎知識を身につけておいてください。定量的方法に基づいて研究を行うには、「統計的方法論研究」の基礎的内容を習得した上で、応用回帰分析やサーベイリサーチ法といった実証分析手法を学ぶために「統計的方法論特殊研究」を履修することが必要です。方法論については、指導教員と相談して各自が研究を行う上で必要な講義を履修してください。

経営制度分野の標準的履修例



決定分析分野の基礎的科目の体系

1. 決定分析分野の研究者になるには、決定分析の理論と実証を学んだ上で、市場経済分析など様々な応用分野の理論を学ぶ必要があります。

2. 決定分析分野は以下の3つの理論からなります。

- ・選択理論
- ・ゲーム理論
- ・契約理論

3つの理論はいずれも人間の合理性モデルの標準型であって、経営学の様々な分野で用いられるので、分野によらず経営学研究科の多くの学生が学ぶべき内容です。この3つを理解するには、この順序で学ぶ必要があります。1人の個人の合理的選択を扱う選択理論と複数人の合理的選択の相互作用を扱うゲーム理論は「決定分析特論」で、情報の非対称性の下にある人々の合理的選択をインセンティブの設計という観点で考察する契約理論は「決定分析特殊研究（組織の経済学）」で学びます。

3. 決定分析分野の研究者になる上で学ぶべき応用分野の主なものは2つあります。1つは市場経済の理論で、その基礎を「市場経済分析特論」で学びます。そして、「市場経済分析特殊研究」で市場と戦略に関するさらに高度な理論と実証について学びます。また、一般均衡理論の進んだ内容を学ぶ必要もあります。

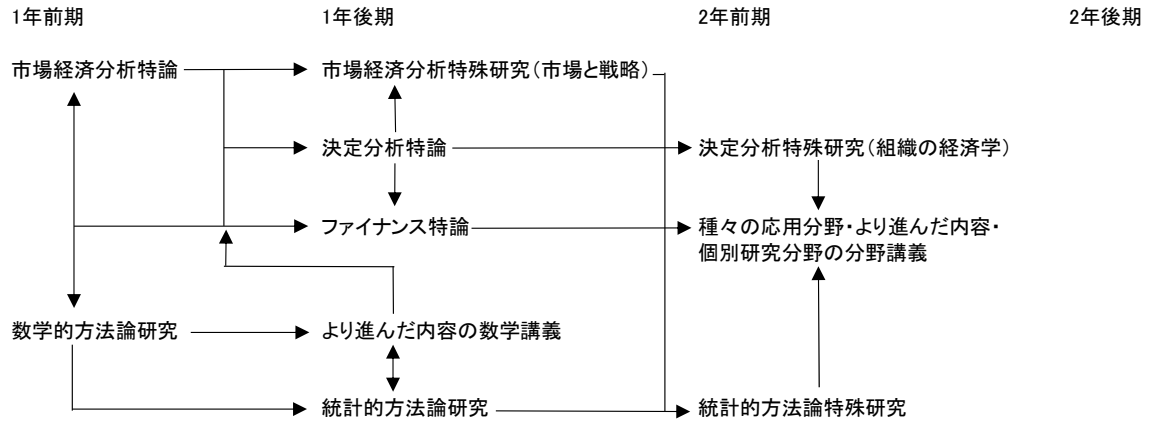
学ぶべきもう1つは、市場取引に限らない、様々な取引や制度をゲーム理論および契約理論で研究する組織の経済学です。経営現象の中核を担う組織とそれを構成する個人を理解するためには組織の経済学をしっかり学ぶ必要があります。「決定分析特殊研究（組織の経済学）」でその基礎を学ぶことでこの分野の最先端の研究を理解できるようになります。

決定分析分野の研究者になるには、これら以外にも多岐にわたる応用分野を網羅的に学ぶのが望ましいでしょう。そのためには、神戸大学大学院経済学研究科、大阪大学大学院経済学研究科、京都大学大学院経済学研究科等で開講されている決定分析の応用分野の科目を積極的に履修することが望まれます。

4. 決定分析分野の研究者になるためには実証分析の手法も学ぶ必要があります。「統計的方法論研究」で推定・検定・回帰を論じる数理統計学の基礎を学びます。そして、実際に実証分析ができるようになるには、「統計的方法論研究」で取り扱う基礎的内容を修得した上で、より進んだ内容を学ぶ必要があります。特に、多変量解析や非集計データ分析に関する実証分析手法を学ぶことは重要であり、「統計的方法論特殊研究」でこれを学びます。

5. 2.と3.で言う理論を学ぶ科目体系も、4.で言う実証を学ぶ科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」で取り扱う数学の知識の上に可能となります。その上で、さらに、「数学的方法論研究」の範囲を超えた、進んだ内容の数学を学ぶ必要があります。そのためには、本学理学部等で開講されている数学科目を積極的に履修することが望まれます。

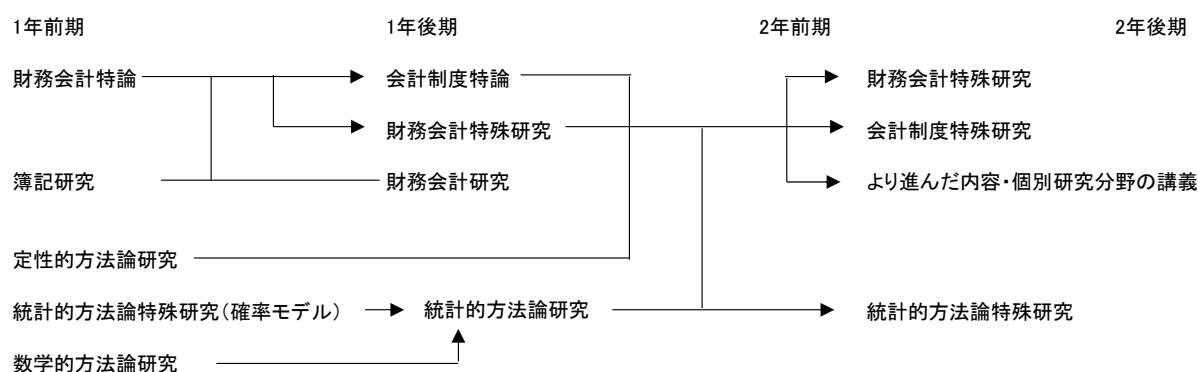
決定分析分野の標準的履修例



財務会計分野の基礎的科目の体系

1. 財務会計特論は、現在の財務会計の理論と制度の歴史的経緯と現状、そして今後の課題と展望を取り扱います。講義は、学部レベルの基礎知識を前提として進めますので、このレベルに達していない受講者は、まず第5群科目の「簿記研究」または「財務会計研究」を履修し、基礎知識を習得する必要があります。
2. 財務会計特論は、企業外部への報告のための利益の測定と報告に関する理論の考察に焦点を絞りますので、利益の測定と報告に関する研究の関連領域ともいえるべき監査、国際会計および税務会計までは時間的に言及する余裕がありません。しかし、監査、国際会計および税務会計に関する理論と制度に関する知識の習得が、財務会計をさらに深く理解するために大いに役立ちます。そこで、財務会計特論を習得した上で、監査、国際会計および税務会計を取り扱う「会計制度特論」もあわせて履修することを強く推奨します。
3. 財務会計特論で学習した内容の理解を前提として、第3群科目の「財務会計特殊研究」または「会計制度特殊研究」で、それぞれの分野における最先端の成果と展望を学びます。
4. 財務会計に関する研究方法には、法律解釈のほかに、歴史研究、理論（モデル）分析、記録資料に基づく実証研究、および実験研究など多様な方法が用いられています。そこで、第2群科目については幅広い履修が望まれます。

財務会計分野の標準的履修例

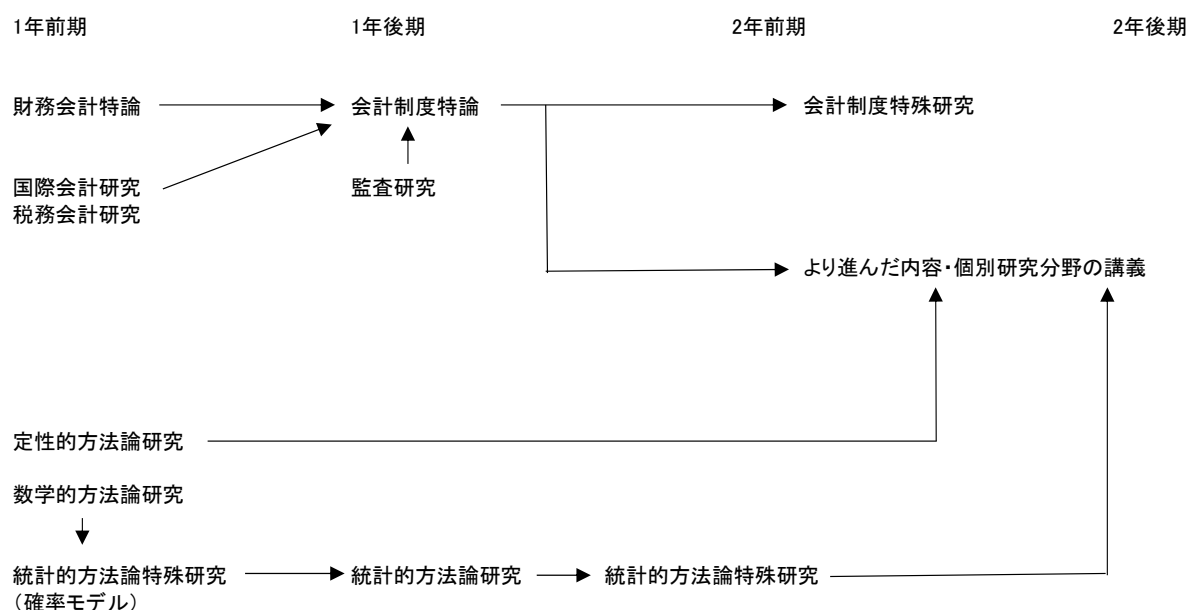


注:第2群科目(定性的方法論、統計的方法論、数学的方法論)は、指導教員と話し合っ、各自の研究方向に合った方法論を選ぶこと。

会計制度分野の基礎的科目の体系

1. 会計制度特論は、監査、国際会計および税務会計に関するわが国および海外の制度（国際的ルールを含む）の現状、課題および展望を取り扱います。講義は、学部レベルの基礎知識を前提として進めますので、このレベルに達していない受講者は、まず第5群科目の「監査研究」「国際会計研究」および「税務会計研究」を履修し、基礎知識を習得する必要があります。
2. 会計制度特論は制度に焦点を絞りますので、簿記や財務会計に関する原理や実務の高度な内容までは時間的に言及する余裕がありません。しかし、制度の理解には原理や実務の理解が不可欠であることは言うまでもありません。そこで、これらを取り扱う「財務会計特論」もあわせて履修する必要があります。
3. 会計制度特論で学習した監査、国際会計および税務会計の制度的枠組みの理解を前提として、第3群科目の「会計制度特殊研究」で、監査、国際会計および税務会計の各分野における理論または実証の分析の最先端の成果と展望を学びます。
4. 会計制度に関する研究方法には、法律解釈のほかに理論（モデル）分析、記録資料に基づく実証研究および実験研究など多様な方法が用いられています。そこで、第2群科目については幅広い履修が望まれます。

会計制度分野の標準的履修例



管理会計分野の基礎的科目の体系

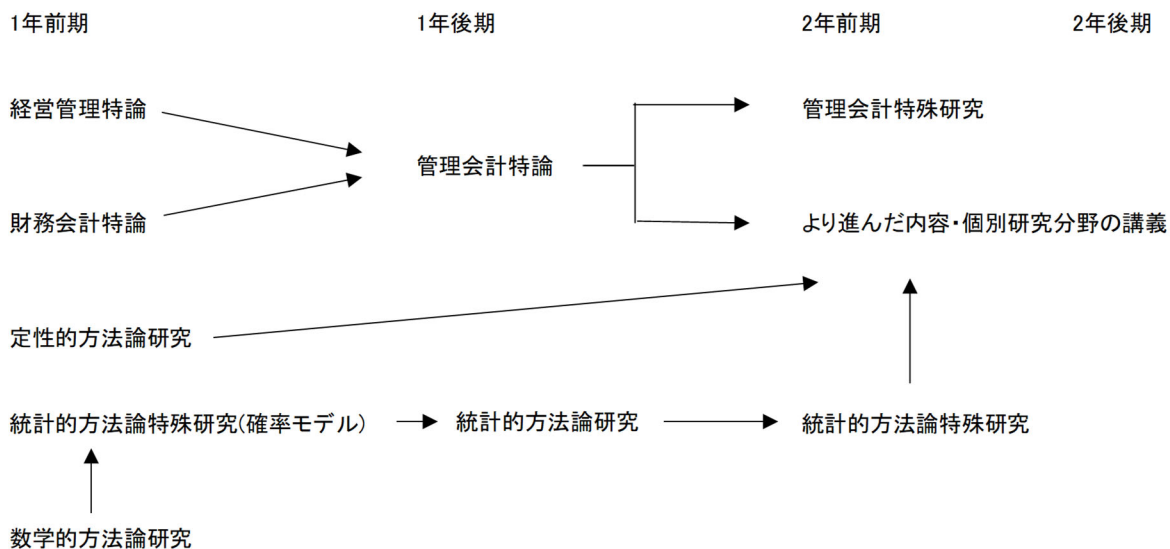
1. 管理会計分野の研究者になるには、経営管理および管理会計にかかわる理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 管理会計の前提として、経営管理に関する基礎知識は、「経営管理特論」、会計学に関する基礎知識は、「財務会計特論」で学びます。
3. 管理会計に関する基礎知識は、「管理会計特論」で学びます。さらに高度な内容を、「管理会計特殊研究」で学びます。「管理会計特殊研究」（適宜開講）においては、先進的な管理会計実務や管理会計の実証的研究に向けた理論や方法論などについて取り扱うので、「管理会計特論」を履修済みであること、もしくは並行して履修することが望まれます。以上の講義でカバーできない知識は、関連するより進んだ内容・個別研究分野の講義で学ぶことができます。
4. 実証は、互いに異なる2つの方法を学びます。管理会計分野の研究者となるには、この2つの方法の双方を学ぶ必要があります。

第1は、質的（定性的）方法です。これは、「定性的方法論研究」で学びます。この科目では、社会現象を解明するための代表的な複数の定性的研究アプローチを取り扱います。

第2は、量的（定量的）方法です。これは主に、「統計的方法論研究」と「統計的方法論特殊研究」で学びます。これらの科目では、調査データや統計データを数量的に分析するために、実証主義に基づいて、データを収集し仮説検証するアプローチを取り扱います。定量的アプローチは、もっぱら統計的方法に基づいて行なわれるために、調査方法に関して一応の理解が得られた後に、統計的方法を学ぶことが求められます。

「統計的方法論研究」では、統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を学びます。数理統計学を理解する前提として、「統計的方法論研究」に先立って「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」を履修することが望ましいです。そして、「統計的方法論特殊研究」などを学ぶことで目的が達せられます。

管理会計分野の標準的履修例



マーケティング分野の基礎的科目の体系

1. マーケティング分野の研究者になるには、マーケティングに関する理論と実証を学ぶ必要があります。
2. マーケティングに関する理論は、その基礎を「マーケティング特論」で学び、さらに顧客価値、製品戦略またはチャネル管理などの高度な内容を、「マーケティング特殊研究」で学びます。
3. 実証は、互いに異なる2つの方法を学びます。マーケティング分野の研究者となるには、この2つの方法の双方を学ぶ必要があります。

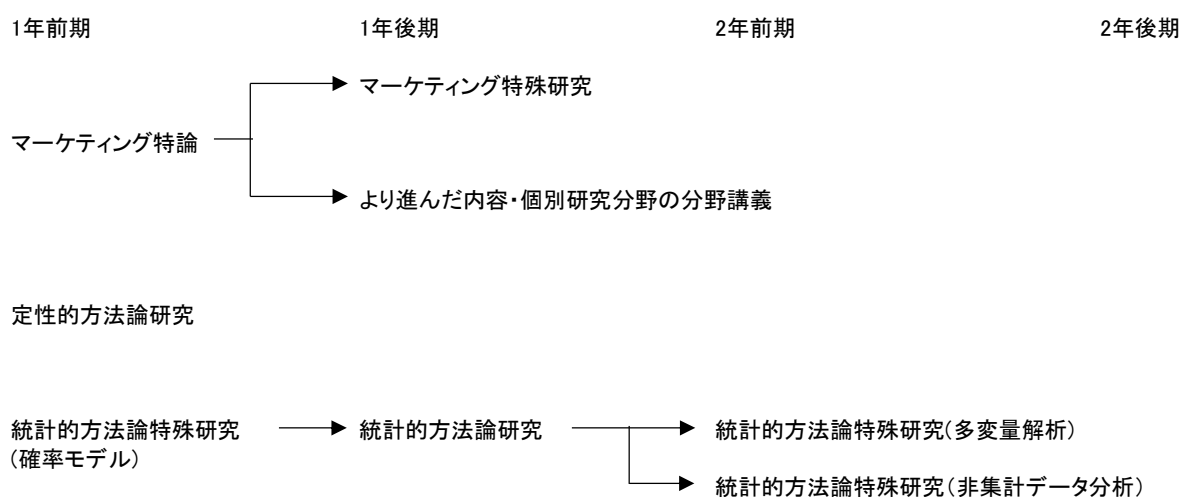
第1は、質的（定性的）方法です。これは、「定性的方法論研究」で学びます。この科目では、社会現象を解明するための代表的な複数の定性的研究アプローチを取り扱います。

第2は、量的（定量的）方法です。これは主に、「統計的方法論研究」と「統計的方法論特殊研究」で学びます。これらの科目では、調査データや統計データを数量的に分析するために、実証主義に基づいて、データを収集し仮説検証するアプローチを取り扱います。定量的アプローチは、もっぱら統計的方法に基づいて行なわれるために、調査方法に関して一応の理解が得られた後に、統計的方法を学ぶことが求められます。

第2のアプローチに関連して、とくにマーケティング分野における数理モデルによる研究アプローチを修めることを希望する場合は、「数学的方法論研究」を履修し、市場経済分析分野の科目を履修することが勧められます。

「統計的方法論研究」では、統計解析の基本となる推定・検定・回帰を論じる数理統計学を学びます。数理統計学を理解する前提として、「統計的方法論研究」に先立って「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」を履修することが望ましいと言えます。また統計的方法を研究に用いる実際を教える授業として「統計的方法論特殊研究（多変量解析）」や「統計的方法論特殊研究（非集計データ分析）」が開講されるので、修士論文の作成のために履修することが勧められます。

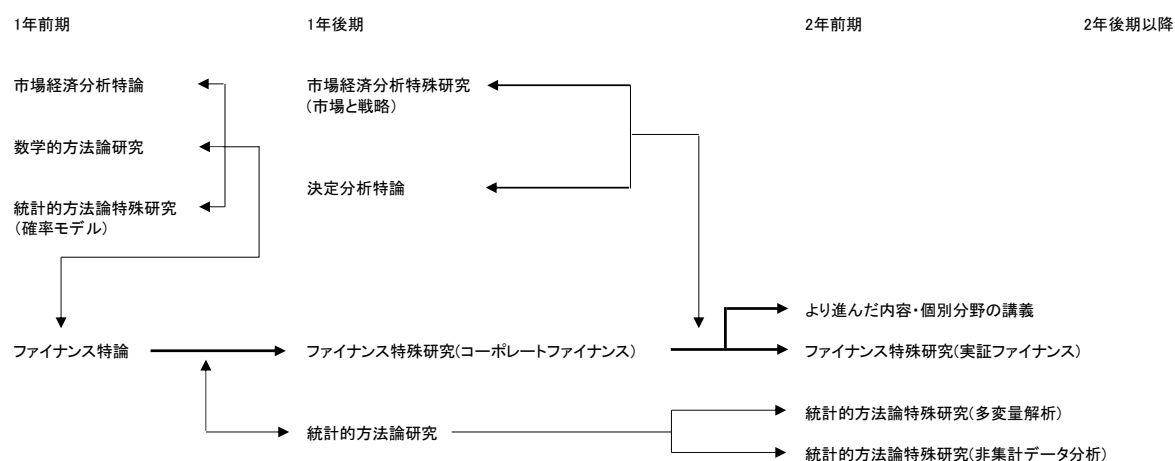
マーケティング分野の標準的履修例



ファイナンス分野の基礎的科目の体系

1. ファイナンス分野の研究者になるには、市場経済の理論と実証を学び、それに加えてファイナンスの理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 市場経済の理論は、その基本を「市場経済分析特論」で学び、さらに高度な内容を、市場と戦略について「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で学びます。ファイナンス分野の研究者になるには、「市場経済分析特論」、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」を全て学ぶことが推奨されます。
3. 実証は、推定・検定・回帰を論じる数理統計学を学ぶ「統計的方法論研究」が基本となります。それを理解する前提として、統計的方法論研究の前に「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」で確率モデルを学びます。他方、数理統計学の内容だけでは、実際に市場経済の実証分析を理解することはできません。なぜなら、市場経済という特定の研究対象の実証に必要な統計的方法が、多様にあるからです。それらを、数理統計学の理解を前提として、「統計的方法論特殊研究（多変量解析）」や「統計的方法論特殊研究（非集計データ分析）」で学びます。
4. 2. で言う理論を学ぶ科目体系も、3. で言う実証を学ぶ科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」で取り扱う数学の知識の上に可能となります。
5. 2. で言う理論を学ぶ科目体系のうち、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で取り扱う内容を理解するには、選択理論を学ぶ「決定分析特論」の知識があることが求められます。
6. ファイナンスの理論は、その基本を「ファイナンス特論」で、応用を「ファイナンス特殊研究（コーポレートファイナンス）」で学びます。「ファイナンス特論」の内容を理解するには、
 - ・市場経済の基礎理論を取り扱う「市場経済分析特論」の知識
 - ・選択理論を取り扱う「決定分析特論」の知識
 - ・確率モデルを取り扱う「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」の理解
 の3つがあることが望ましいと言えます。
7. ファイナンスの実証は、「統計的方法論特殊研究」、「ファイナンス特殊研究（実証ファイナンス）」で学びます。ファイナンスの実証を理解する前提は、「ファイナンス特論」で取り扱うファイナンス理論の理解と、「統計的方法論研究」で取り扱う数理統計学の知識です。

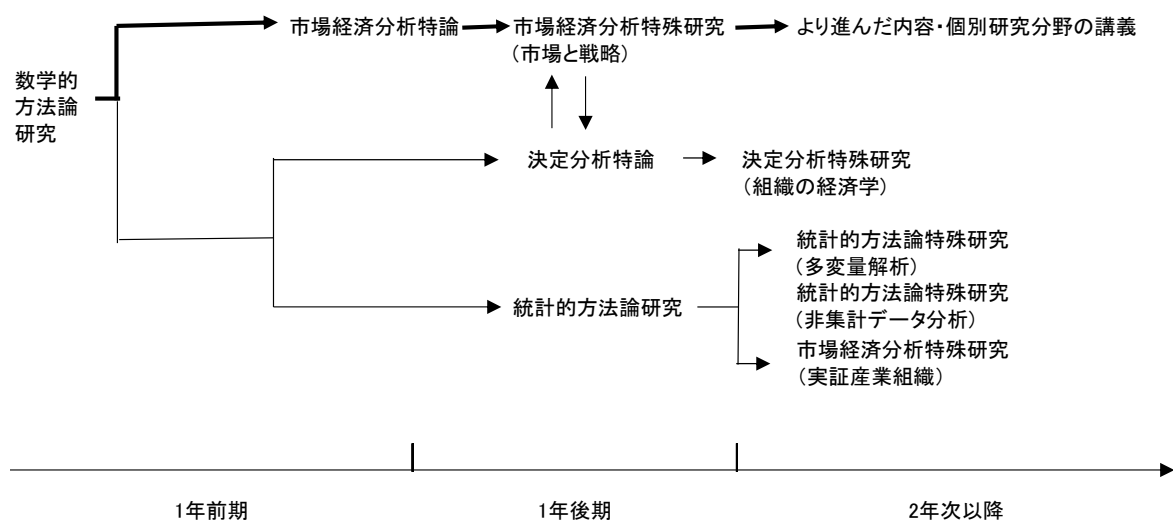
ファイナンス分野の標準的履修例



市場経済分析分野の基礎的科目の体系

1. 市場経済分析分野の研究者になるには、市場経済の理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 市場経済の理論は、ミクロ経済学と産業組織論が基本となります。その基礎から中級レベルの内容を「市場経済分析特論」で学び、上級レベルの内容を「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で学びます。このうちで市場経済の基礎理論を取り扱う「市場経済分析特論」は、経営学研究の基礎の性格をもつものであり、専門分野によらず経営学研究科の多くの学生が学ぶべき科目です。
3. 市場経済の実証は、推定・検定・回帰に関する数理統計学を学ぶ「統計的方法論研究」が基本となります。しかし、「統計的方法論研究」の内容だけでは、市場経済の実証分析を十分にカバーすることはできません。なぜなら、同時方程式分析、パネルデータ分析、非集計データ分析など、市場経済の実証分析に必要となる多様な統計的方法があるからです。このため、「統計的方法論研究」の理解を前提とした上で、「統計的方法論特殊研究（多変量解析）」や「統計的方法論特殊研究（非集計データ分析）」（いずれも2年後期）を履修するようにしてください。さらに、産業組織論の実証研究を希望する学生は「市場経済分析特殊研究（実証産業組織）」（2年後期）を履修するようにしてください。
4. 2.で言う理論を学ぶ科目体系も、3.で言う実証を学ぶ科目体系も、ともに、「数学的方法論研究」で取り扱う数学の知識の上に成り立っています。
5. 2.で言う理論を学ぶ科目体系のうち、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で取り扱う上級レベルの内容を理解するには、選択理論を学ぶ「決定分析特論」の知識があることが望ましいと言えます。さらに、「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」の履修の後には、組織の経済学を学ぶ「決定分析特殊研究（組織の経済学）」を履修することもできます。

市場経済分析分野の標準的履修例



注: 図において、太線はこの研究分野の中心的な科目の履修順序を示す。

交通分野の基礎的科目の体系

1. 交通分野の研究者になるには、交通に関する理論と実証を学ぶ必要があります。
2. 交通分野に関する理論は、ミクロ経済学の応用である交通経済学が基本となりますが、まずは、その基礎を「市場経済分析特論」で学びます。そして、その応用を「市場経済分析特殊研究（国際交通）」で学びます。発展的な内容を「市場経済分析特殊研究（市場と戦略）」で取り扱うので研究のテーマに応じて履修を検討することを推奨します。また、交通経営・ロジスティクス分野に関心のある学生の場合は、むしろ「マーケティング特論」をはじめとしたマーケティング分野の学習を優先させることを推奨します。
3. 交通分野の実証は、推定・検定・回帰に関する数理統計学を学ぶ「統計的方法論研究」が基本となります。それを理解する前提として、「統計的方法論研究」の前に「統計的方法論特殊研究（確率モデル）」で確率モデルを学びます。しかし、「統計的方法論研究」の内容だけでは、実証分析を十分にカバーすることはできません。なぜなら、交通分野の実証分析に必要な多様な統計的方法があるからです。このため、「統計的方法論研究」の理解を前提とした上で、「統計的方法論特殊研究（多変量解析）」を履修するようにしてください（2年前期）。そして1年後期あるいは2年後期に、「統計的方法論特殊研究（非集計データ分析）」を履修してください。

交通分野の標準的履修例

